

群馬県立藤岡特別支援学校 学校評価一覧表②(令和4年度版)

(様式2)

羅 針 盤			※各学校で設定	達成度			改善状況のまとめ	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		①	②	総合		
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	PTAが関連する総会や事業に参加した保護者の95%以上が満足している。	渉外部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAの活動については多くの保護者が問題ないと考えていると言える。</li> <li>Webページの積極的利用はあったが成果としては少ない。</li> <li>いじめに関する保護者の認知度は着実に上がっているが、自分のこととして捉えきれていない方もいる。</li> <li>校内でのケース会議は思うように実施できていないため、指導に苦慮する教諭や保護者が居る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAの活動については新型コロナウイルス感染症への対応が変わることをふまえて計画していく。</li> <li>Webページだけでなく他のメディア等の活用を研究していく。</li> <li>PTAの集まり等だけでない周知や連携の機会を模索していく。</li> <li>学部会や学年会のすきま時間の活用や実施形態を研究していく。</li> </ul>
		学部・学級便りやWebページ等から「子どもの学習の様子がよく分かる」と保護者の95%以上が答えている。	教務部 各学部	B	B	B		
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	いじめの認知の仕方について保護者の90%以上が理解している。	生徒指導部	B	B	B		
		児童生徒全員について、ケース会議又はサービス等利用計画作成のための会議を実施し支援につなげる。	各学部	B	B	B		
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	就学前のケースの相談について、昨年比で30%増加している。	地域支援部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学前の子どもたちの支援は充実してきていて、本校に認知度も上がってきている。</li> <li>研修と聞くと構えてしまう教諭やスタイルを変えにくい教諭も多かったが減ってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きPRすることを含め関係機関との具体的連携を行っていく。</li> <li>校内と校外のニーズをうまくふまえた研修を計画し公開していく。</li> </ul>
		外部機関等向けの研修を年に5回以上行っている。	地域支援部 研修部	B	A	A		
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	100%の保護者の参画のもと、個別の指導計画を立案している。	各学部	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画に関する満足度は高いが、後期に若干値が低くなる傾向がある。</li> <li>教師の授業力は確実に上がり、計画訪問や研修会でも高評価を得た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育の状況は基本的に良くなっているため、保護者の参画の方法やPRの仕方などを工夫していく。</li> <li>先生方のできていることと課題を明確にして更に研鑽に努めていく。</li> </ul>
		95%の保護者が「個別の指導計画」の指導内容についてお子さんの実態に合ったものであると答えている。	各学部	A	A	A		
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	校内研修のテーマに沿った授業検討と研修内容の共有を月1回以上行っている。	研修部 各学部	B	B	B		
		学期に2ケース計4回以上を目途にケース会議を行っている。	地域支援部 各学部	B	B	B		
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	感染症対策や学校安全について、学校の情報提供や対応に95%以上の保護者が満足している。	保健安全部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な感染症対応を継続していることについて高評価を得た。</li> <li>職員に周知徹底をする際に本校Web上のシステムを有効活用できた。</li> <li>学校安全に関する避難訓練を改善しながら4回行うことができた。</li> <li>職員への危機対応マニュアル自体の説明等はできていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度末から年度はじめの対応等について明確に説明できるようしていく。</li> <li>職員にiPadを配布できたので、更にコンテンツの充実等をしていく。</li> <li>年4回の避難訓練はPDCAサイクルで常に改善しながら継続していく。</li> <li>マニュアルの見直しと共に職員への周知徹底の機会を設けていく。</li> </ul>
		コロナ禍における学習活動の可否等について、100%の教師が理解した上で活動している。	保健安全部 各学部	B	A	A		
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	今年度の緊急時対応マニュアルを作成及び配布し、職員に対して年1回以上の研修会を実施している。	保健安全部	B	A	A		
		95%以上の職員が、災害時の対応マニュアルをわかり易いと答え、訓練等で活用している。	保健安全部	B	B	B		
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	小学部から中学部、そして高等部へと一貫した指導計画を立案し、内容を100%の教員が説明できる。	移行支援部 教務部 各学部	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>農園芸をひとつの柱とした教育課程の編成ができてきている。</li> <li>キャリア教育について徐々にではあるが教師の自信がついてきている。</li> <li>移行をテーマに保護者との話し合いや共通理解ができてきている。</li> <li>移行を意識した教育ができていないと教師の理解が足りていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中高と取り入れられるよう積極的にアイデアを出す等、工夫していく。</li> <li>学校教育目標や学部の教育目標に日々の指導が着実につながっていることなどがキャリア教育であることを伝えていく。</li> <li>高等部卒業を見通しづらい年齢の場合は、3年後や小中学部卒業を見据えるなどの工夫をしながら共通理解していく。</li> <li>改めて個別の指導計画と個別の教育支援計画のつながりについて、書式の工夫などもふまえて研究していく。</li> </ul>
		キャリア教育全体計画の内容を直接的に取り扱う授業を、各学級やHR等で学期に1度は実施している。	移行支援部 各学部	B	B	B		
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	社会への移行について早期から本人及び保護者と協議し、意義や内容に95%の保護者が満足している。	移行支援部 各学部	A	A	A		
		全児童生徒について個に応じた具体的な移行時の姿をもとに指導内容を導き、個別の計画に表している。	各学部 教務部	B	B	B		

※ 達成度については、Aはアンケートにおいて「とてもそう思う」が、「ややそう思う」を上回った場合で、B「とてもそう思う」が、「ややそう思う」を下回った場合です。そのため、アンケートとしては総じて高評価を得ています。(「様式3」も同様。)